歴史社会学としての「平成」研究の検討

―C.W.ミルズの「社会学的想像力」の再考を通じて―

東京大学　高田正哉

■目的および問題意識

本報告は、平成期に関する従来の調査研究の検討および、チャールズ・ライト・ミルズ（Charles Wright Mills 1916-1962）の「社会学的想像力（sociological imagination）」の再考を通じて、歴史社会学として「平成」という時代をいかに研究していくか、という問いに対してその考察を試みることを目的としたものである。「平成」という時代は、今も続いている「現在」であると同時に、かつてあった出来事としての「過去」でもある。また、元号が「平成」に変わり四半世紀が経過した近年では、「過去」としての平成期について検討する研究を目にする機会も多い。

しかし、平成期は現在も進行途中の時代であると同時に、今の地点から振り返ることが可能な時代でもあるため、「平成」に関する研究手法は現状では乱立している。一応、それらは大別すると①歴史的方法、②批評的方法の二つに分類され、前者の代表的なものとしては大澤（2008）や吉見（2009）、後者の代表的なものとしては小熊編（2012）や鈴木（2014）をそれぞれ挙げることも可能ではある。だが、それぞれの書物の特徴を考えると、平成期を「現在」とも「過去」とも言い切れない困難さが依然として残っている。その原因は、我々が生きている「平成」という時代が、「過去」として歴史的方法を用いることと、「現在」として批評することのどちらにも馴染まない時代であるからではないかと推察される。つまり、簡潔に述べれば「平成」という時代を捉えるための体系的な方法は現在でも確立されておらず、また確立自体も容易ではない。

そこで本報告では、この方法的な困難さの解決を目指すために上記の問いを立てた上で、ミルズの「社会学的想像力」を手がかりに、「平成」研究のための方法について考察を試みていく。

■方法

その方法として、本報告では平成期について論じた各種資料、具体的には、上記で挙げた研究書および政府関係報告書を対象に、①平成期の研究方法について分類を行う。加えて、②それらの分類結果をミルズ（Mills 1959）および関連論文における、生活史と歴史の比較方法とその検討を手引きに再構築し、以上をもって、歴史社会学として「平成」という時代をいかに研究していくか、という問いに対して一考を試みたい。

■考察

これまでの検討の結果、報告者は「平成」研究を、研究者自身の自己経験の解釈活動であると考える。「社会学的想像力」は自己の経験を歴史の面から捉えるものであるが、これを本報告の問いに当てはめれば、「平成」研究とは、平成期を生きる我々自身の時代経験と、より広い歴史構造を往還するべきものであると考えられる。また、現状の平成史研究は研究者と社会の相互関係を基盤としており、その意味において反省的な「生活史（life history）」の方法として再構築が可能であることも、併せて考えられる。

■結論

「平成」研究は、まだ行われて日が浅いという点で、客観的ないし相対的な視点で行うのが困難な研究である。それでも「平成」という時代を検討することに意味があるとすれば、自己と平成期との相互作用を考察し、社会において理解可能な物語を構築することにあると考えられる。そのため、研究者と研究対象との対話、直言すればフィールドワークを重ねることにより、「平成」時代の研究とその内容をより豊かにし、それと並行して「平成」という時代の捉えるための調査法の確立が、今後必要となってくるだろう。

【参考文献】Charles Wright Mills, Sociological Imagination, 1959, Oxford University Press